<table>
<tr><td>授業科目名：社会学</td><td>教員の免許状取得のための
選択必修科目</td><td>単位数：
２単位</td><td>担当教員名：
細田　満和子
担当形態：単独</td></tr>
<tr><td>実務内容
（実務家教員の場合）</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目
（中学校社会及び高等学校公民）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める
科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項
「社会学、経済学」</td></tr>
<tr><td colspan="4">「学位授与の方針」との関係
本科目は、ディプロマポリシー「Ｄ．多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身に付けていること」「Ｅ．個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探求能力を身に付けていること」を習得することを目的とする。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の到達目標及びテーマ
（１）社会学の基本的な見方を理解する。
（２）「常識を疑う」こと、「社会は社会によって作られていること」を理解する。
（３）現実に起きている諸問題の背景には、その問題を生じさせている様々な人々の営みや制度や仕組みがあることを理解する。
（４）社会問題のいくつかのトピックを、社会学の考え方で説明することができる。
（５）自ら社会的問題を設定して考えてゆくことができる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要
社会の中で現実に起きている事象を理解しようとするには、その現実を成り立たせている様々な人々や制度や仕組みについて良く調べることが重要になる。同じ事象であっても、その人の置かれている立場によって見え方は異なってきます。社会学では、理念や観念の世界ではなく、現実に起きている社会的な事象を対象に、独自のツールを使って読み解いてゆく作業をします。社会学がどんなふうに使えるのかを、具体的な問題を対象にして、考えていただきたいと思います。多様な価値観を持つ人々が、共に生きる社会を構想するうえで、必要な技法を身に付けることになるでしょう。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画
第１回：地位と役割
第２回：役割期待、予言の自己成就
第３回：社会化と過社会化
第４回：心の習慣
第５回：制度論
第６回：ライフコース論
第７回：セクシャリティとジェンダー
第８回：規範と逸脱
第９回：男女共同参画社会、ライフ・ワーク・バランス
第１０回：社会の中の子ども</td></tr>
</table>

第１１回：ソーシャルキャピタル（社会関係資本） 第１２回：リバータリアニズムとコミュニタリアニズム 第１３回：個人と共同体 第１４回：公共性 第１５回：ボランティアとアドボカシー 定期試験
スクーリングでの学修内容 社会集団論、役割論、社会化論、ライフコース論、ジェンダー論など、社会学の基本的な概念についての講義を行い、実際にこうした概念を自分の状況に当てはめてみるグループワークを行う。 （主に、第１回～第３回、第６回～第９回の内容を含む。）
教科書 　細田　満和子（２０１２）『パブリックヘルス市民が変える医療社会　―アメリカ医療改革の現場から―』明石書店
参考文献 （１）ロバート・ベラー（１９９１）『心の習慣―アメリカ個人主義のゆくえ』みすず書房 （２）ロバート・パットナム（２００６）『孤独なボウリング―米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房 （３）佐藤 俊樹（２０１１）『社会学の方法―その歴史と構造』ミネルヴァ書房
学生に対する評価 スクーリング評価（２５％）、レポート評価（２５％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する